

イ. ネット巻き

ネット巻きは、被害の出ている幹や枝の周囲をネットで覆うことにより、羽化した成虫の飛翔・拡散を防止するとともに、効果的に捕殺することを目的として行います。

ネット巻き実施後は、成虫の発生状況の監視を頻繁に行い、成虫が確認された場合には、その場で速やかに捕殺します。

【使用時期】

成虫が発生・拡散する6月頃から8月頃にかけて必要となるため、羽化が始まる前の5月下旬までに設置します。

成虫の発生終了後は、幼虫防除のための薬剤の使用や経過観察などの支障となるだけでなく、景観上も好ましくないため、9月中までには、必ず忘れずに外すようにします。

必要な道具



- ①クビアカツヤカミキリ幼虫駆除用殺虫スプレー、②排糞孔清掃用の千枚通し
- ③小枝・ひこばえ抑制用アグリシートテープ、④雑草抑制用防草アグリシート
- ⑤黒丸君U字ピン+ワッシャー、⑥金槌、
- ⑦ネット上部補強用粘着テープ、⑧ネット上部補強用シュロ縄、⑨浮かせヒモ用 PP ロープ、
- ⑩ハサミ、⑪ホッチキス、⑫ガンタッカー（針：足長 13mm 程度）、
- ⑬草刈り鎌、⑭樹木切り口用殺菌塗布剤、⑮剪定バサミ、⑯ネット巻き用ネット

【使用方法】

① ネットを巻いて固定する

フラスが確認されている幹や枝に巻き付けます。できるだけ高い位置まで設置するのが望ましいですが、作業上の限界もあるため、フラスの確認状況等も勘案します。

閉じ込められた成虫は、脱出しようとネットの中を徘徊しますが、ネットと樹の間に隙間がなく窮屈だとネットを食い破って逃げ出すため、ネット内で本種が動けるくらいの余裕を持たせながら 1周（ネットの目合いが大きい場合は2周程度）巻きます。ネットは幹周以上に余裕を持った長さを用意し、ひだを作る様に固定するとネットと樹の隙間を作ることができます。幹や枝が二股になっている箇所は、股の間にもネットを被せます。

② 上下の隙間をふさぐ

ネットの上部を、壁打ち用ステーブラーや粘着テープ、シュロ縄などで隙間ができないように固定し、細かい隙間は布やスポンジなどの詰め物でふさぎます。ネットの下部（足元）も、ペグなどを使いながら、隙間ができないように固定します。

③ 巡回点検する

ネットを張った後は1日に1回～2回程度（最低でも週3日）巡回し、発見次第、速やかに捕殺して下さい。ネット内で雌雄が出会うとすぐに交尾の可能性が高く、放置していると大量の卵が産み付けられてしまうため、巡回と捕殺は非常に重要です。

ネット巻きのポイント

<ポイント>
ネット幅に余裕を持ち、ネットと樹の間に隙間を空ける



ネットの中に幅のある紐（浮かせ紐）を巻き、その上部でネットを固定することでネットと樹が密着することを防ぐことができる。



ネット巻き設置例

<ポイント>
ネットの上下は隙間を作らないように閉じる

<ポイント>
ネット内の成虫が見つかりにくくなるため、ネット内に草や木が生えないようにする。



事前に根元は草刈りし、防草シート等を敷く。